

佐藤友則：Vth Asian Pacific Phycological Forum 大会参加記

2008年11月10日から14日までの5日間、Asian Pacific Phycological Forum (APPF) の第5回大会がニュージーランドの首都、ウェリントンにあるヴィクトリア大学において行われました。

日本とは季節が逆のニュージーランドでも11月は気温がまだ低く、少し肌寒い陽気ではありましたが、これからやってくる夏に向けて活気に満ちた雰囲気が街中から感じられるようでした。そのような中で行われた本大会は主に第1、第2会場に分かれて口頭発表が行われ、ポスター発表は2日目(11日)と4日目(13日)にそれぞれ奇数と偶数番号とに別れて発表が行われました。

開会式では挨拶に続いて、現地の先住民であるマオリ族の歓迎の歌が披露されました。英語の苦手なわたしには挨拶の内容の半分すら理解することはできませんでしたが、日本とは異なる式典の雰囲気にこれから始まる学会への期待と不安の気持ちが高まるようでした。その後の口頭発表には興味ある分野に絞っていくつか視聴することにしました。流石にネイティブな英語となるとヒアリングが難しく、主にスライドだけから内容を把握する機会が多かったのですが、わたしにとって今回が初めて参加する海外の学会であったため、会場の雰囲気や海外では現在どういった研究がなされているかを知ることができただけでも大きな刺激となりました。そして、ポスター発表ではクリプト藻のヌクレオモルフの分裂期における形態学的観察とDNA合成期の解析というテーマでわたしも発表させていただきましたが、驚いたことにこの発表の最中にビールやワインが供され、さながら立食パーティーの



図2：ポスター発表会場

ような形式で発表が行われていたのです。わたし自身お酒好きなので非常に嬉しいサービスでしたが、改めて文化の違いを認識させられる出来事でした。そして、わたしの発表のほうはMelbourne大学のJohn West先生やKongju大学のGwan Hoon Kim先生といった方々に下手な英語ながらも聞いていただくことができ、また東京大学の野崎先生や山形大学の原先生といった方々にも日本語の発表を聞いていただくことができました。いろいろなご意見・ご質問を頂くことができ、その後の修士論文のまとめとして参考にさせていただいております。また、今回の学会では口頭発表・ポスター発表合わせて200以上の発表があり、アブストラクトを一見しただけなのですが、日本の学会に比べて環境や生産分野に寄与する応用的な発表が多いように感じられたのが、本大会の印象でした。

最後になりますが、APPFの第6回大会はGwan Hoon Kim先生がホストとなり韓国のKongju大学で2011年に行われます。今回のAPPFの第5回大会を運営・組織した大会スタッフにこの場を借りて感謝するとともに、次回開催の韓国でも同じように素晴らしい大会であることを期待しております。

(北海道大学・環境科学院生物圏科学専攻/
北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所)



図1：口頭発表会場・開会式の様子